



すべての人々と **めざす**  
すべての人々が **活きる**  
“まち”づくり

シミズの次世代まちづくり

## 「次世代のまち」を共創する

急速に進行する少子高齢化、災害の激甚化、感染症対策等の切迫した課題に直面し、各地で都市の生き残りを賭けた様々な取り組みが検討されています。

また、オンライン、リモートワークといったDX（デジタルトランスフォーメーション）が浸透していくなかで、変化に適応していく「まち」と適応できず衰退していく「まち」の二極化がますます顕著になっていくでしょう。

いま「まち」は大きな変革期にあります。

2021年4月、清水建設は「新しい時代」に向けて、“次世代のまちづくり”をテーマとした専門部隊『スマートシティ推進室』を発足させました。

「まち」の変革期において、自治体や企業、そして地域の人々と共に「まち」のあるべき姿を考え、話し合い、課題を解決しながら、その時代、その地にふさわしい魅力の向上と地域活性化を目指します。

その先行的な取り組みとして、現在、東京都江東区の豊洲エリアにて、新たなまちづくりを推進しています。

しかしながら、この取り組みはまだまだ始まったばかり。

ぜひ、皆さまと共に新しい“まち”の在り方、可能性を追求していきたいと考えております。

2021年9月

清水建設株式会社 スマートシティ推進室

すべての人々と **めざす**

すべての人々が **活きる**

“まち”づくり

まちは誰のものか

まちは何のためにあるのか

まちはどう変わっていくのか

いま、まちは「暮らす・働く・学ぶ・遊ぶ」場所という役割だけでなく、多様な価値を生み出す“まち”へ進化しつつあると考えます。

コネクテッド技術とAIを活用し、生活をもっと安心・安全そして便利に。

高齢者や障がい者を含め、すべての人々に寄り添い、自由を、平等を支える存在に。

そして新しい産業やサービス、文化・情報を創出する拠点に。

私たち清水建設グループが想う“まち”…それは、

“まち”に暮らす・働く・学ぶ・遊ぶ…すべての人々とめざす

すべての人々が活きる“まち”

すべての人々が活躍する、躍動する舞台（ステージ）としての“まち”

そして、すべての人々とともに成長する“まち”

さあ。

と一緒に、次世代の“まち”を考えてみませんか？

クルマやスマホが持続的にバージョンアップされるように、“まち”も人々の生活や社会の変化に対応して、柔軟にアップデートできないか？

戦略 1 SHIMZ SMART CYCLE

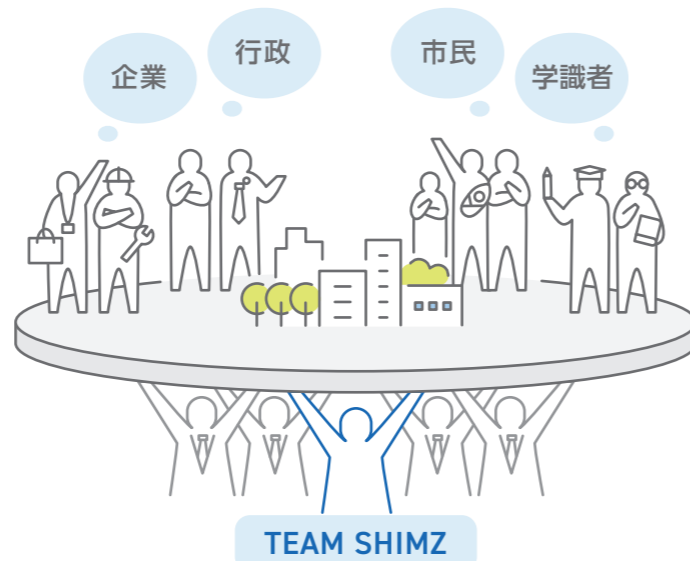
計画段階からまちの運営まで、あらゆる段階でまちづくりをサポートします。

課題発見、組織づくり、都市計画から、設計・施工、まちの運営サービスの共創パートナーとして貢献いたします。また、住民・行政・企業・学識者と、目指すまちづくりのイメージを共有し、誰もが活躍できるまちを共創してまいります。スマートシティ推進室は全社横断組織として、各部門の専門知識を集約し、皆様と共にまちづくりに取り組みます。



戦略 2 SHIMZ INNOVATION PLATFORM

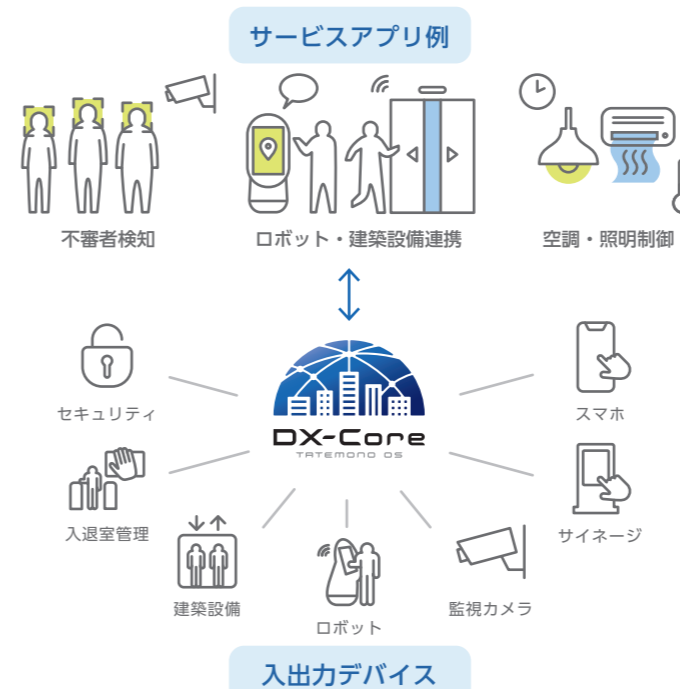
さまざまな専門知識の結集により、新しい発想で次世代のまちづくりの具体化に貢献します。



200年以上にわたり地域に根差し、建設事業に携わってきた清水建設は、47都道府県に営業所を設け、地域の課題発見から、課題解決に向けた組織づくりに貢献いたします。35年以上にわたり豊洲エリアで培った地域住民・学識者・行政・地域企業との連携のノウハウやネットワークを活かして、新たなまちづくりを目指します。

戦略 3 SHIMZ 建物 OS (DX-Core)

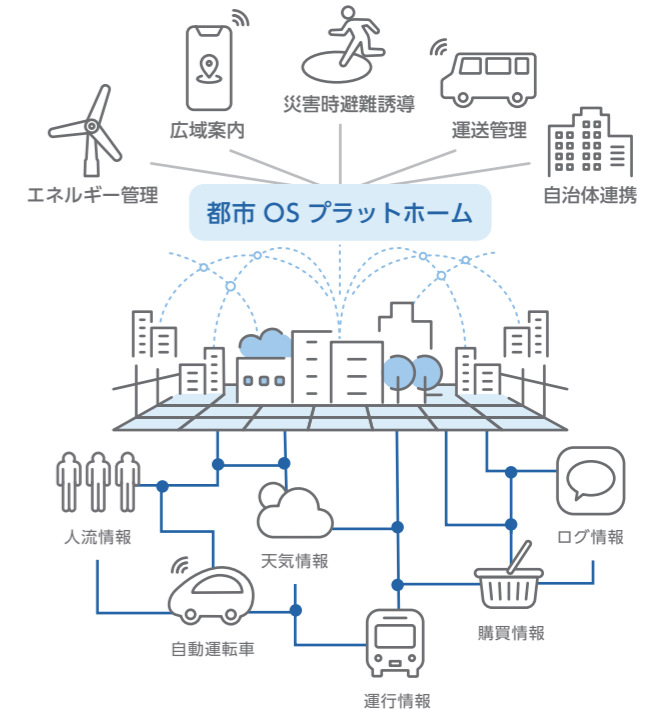
オープンなプラットフォーム技術で建物に関わる様々なデータを活用し、新たなサービスを創造します。



パソコンやスマートフォンがOSのバージョンアップで機能や使い勝手が向上するように、建物もOSをアップデートすることで機能を向上させ、進化させることができます。清水建設の建物OS (DX-Core) は、あらゆる建築設備機器の制御やスマートフォンアプリ、サイネージ等をOS上で連携させることにより、メーカーやベンダーを問わず、建物機能(新しい技術やサービス、ソフトウェア)のアップデートが可能です。さらに、まち全体をマネジメントする都市OSとデータ連携することで、まちとともに進化し続ける建物が実現します。

戦略 4 SHIMZ 都市 OS

都市OSを活用し、都市マネジメントの視点でひと中心のまちづくりを支援します。



建物OSで収集したデータは都市OSへ連携。バーチャルなシミュレーションを経て、リアルなまちのサービスを創出します。さらに、自治体情報や交通気象等の広域情報等と連携することで、広域のサービスや防災対策等も実現します。清水建設は都市OSデータ連携基盤の構築経験を活かし、まちをアップデートし続けます。

一人ひとりに寄り添う

# Personalize & Connectivity

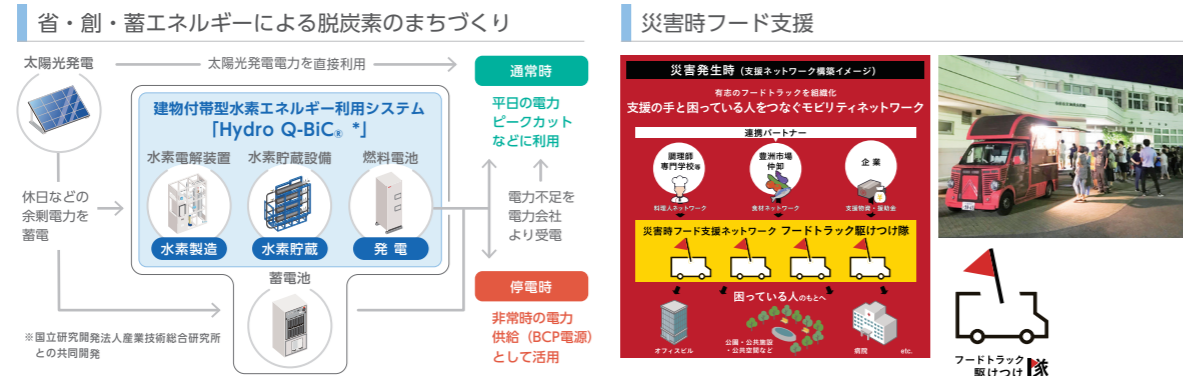
ヒト・モノ・コト・マチがつながる

2つの視点が“まち”の個性と魅力と強さを創り出す。

## “環境にやさしく、災害に強いレジリエントなまち\*”

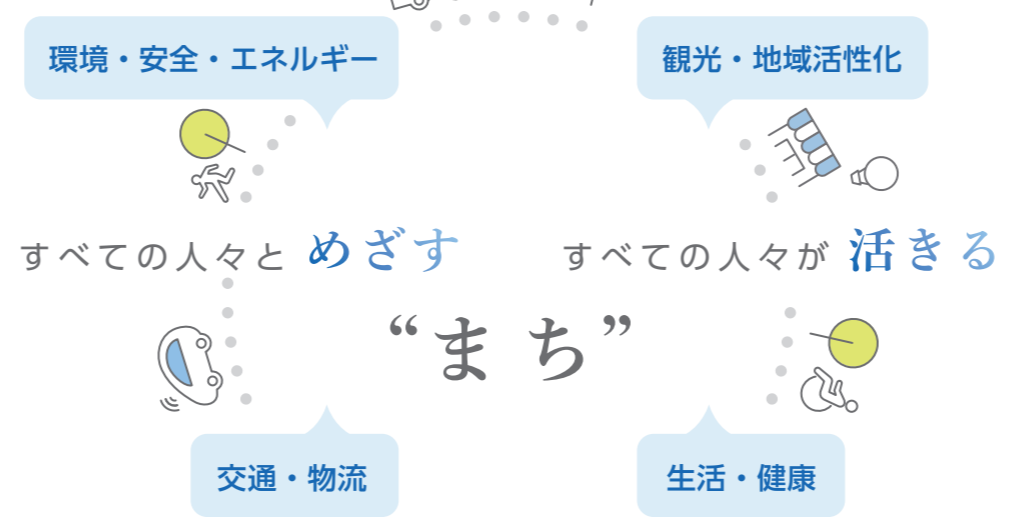
建物やまちからのCO<sub>2</sub>排出を削減し、「スマートエネルギーマネジメント」「安全な水素貯蔵による災害時のエネルギー供給」などの最先端技術を駆使して、環境にやさしく災害に強い次世代のまちづくりを進めます。

\*レジリエントなまち：リスクや危機を乗り越える力のある「強靱な」まち



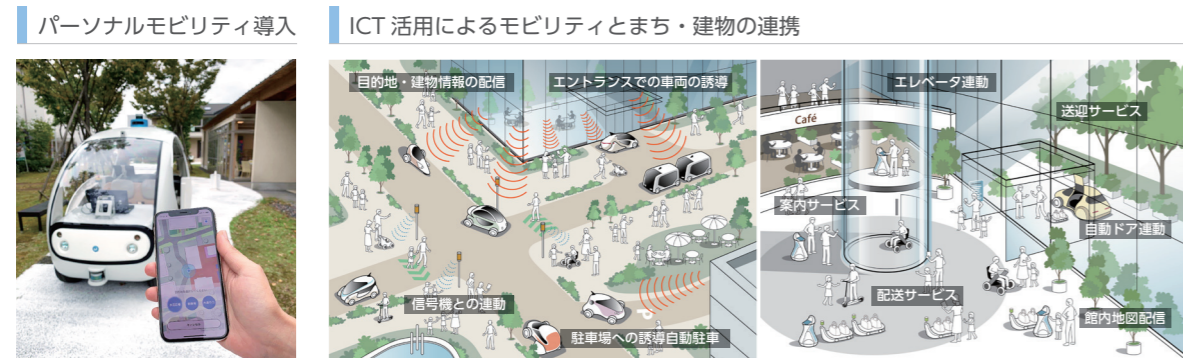
## “リアルタイムでつながる魅力あふれるまち”

スタートアップ企業と連携し、データを活用した飲食や物販、イベントなどの多様なサービスを展開するとともに、地域資源とのコラボなども積極的に推進して、地域のにぎわいづくりに貢献します。



## “すべての人やモビリティがシームレスに移動できるまち”

既存の公共交通に加えてパーソナルモビリティ等の小型モビリティを導入し、建物やまちのデバイスと連携。すべての人が容易に移動でき、より多様でフレキシブルなモビリティサービスが提供されるシームレスなまちづくりを進めます。



## “一人ひとりが健康でいきいきと活躍できるウェルネスなまち”

まち、建物の中でよりアクティブに活動できる環境やサービスを提供し、誰もがいきいきと健康に生活できるウェルネスなまちづくりに貢献します。



交通結節・賑わい・情報発信・防災の各機能を備えた日本初の「都市型道の駅」  
多様な企業とのコラボレーションによる新規サービスの検証・実装のステージへ

新交通ゆりかもめ「市場前」駅から豊洲ぐるり公園・晴海運河に至る歩行者空間が、交通広場の上を覆う約 1,700 m<sup>2</sup>もの大規模オープンスペースと一体となり、来街者の憩い・交流の場に。スマートシティを体感するメインステージです。  
また、交通広場を中心として、多様な交通モビリティのスムーズな乗り換えが可能な交通結節点となります。



リアル空間とデジタル空間を融合させた新たな建物サービスを提供。最先端 ICT を活用した新規サービス事業の実証実装の場です。多様な企業・大学やスタートアップ企業との協業＝オープンイノベーションにより豊洲エリアを起点としたシミズの「次世代まちづくり」を展開していきます。



## 豊洲スマートシティの実現に向けて

豊洲エリアは、2019年5月に国土交通省スマートシティモデル事業において先行モデルプロジェクトに選定され、同年11月に「豊洲スマートシティ連絡会」「豊洲スマートシティ推進協議会」が設立されました。清水建設は幹事企業の1社として、地方公共団体や豊洲関連企業、技術提供企業と連携しながら、まちの課題解決に向けた取り組みの検討を進めています。  
住民やワーカー、来街者など多様なステークホルダーが存在し、成長途上にある豊洲エリアにおいて、先進的技術と都市OSの活用により様々な分野でサービス・ソリューションを提供。個々人のニーズ充足と満足度向上、まちの課題解決を図るとともに、多様な施設・個人が共存・共栄する「ミクストユース型未来都市」の実現を目指します。



### ●お問い合わせ先●

清水建設株式会社 スマートシティ推進室 次世代都市モデル開発部

toyosusmartcity@shimz.co.jp TEL.(03) 3561-3521

担当：大村 tamataro-omura@shimz.co.jp TEL.(080) 8055-0249

シミズの  
次世代まちづくりHP

